

令和4年度 第2回三田市環境審議会 議事概要

会議の名称	令和4年度 第2回三田市環境審議会		
会議の日時	令和4年10月26日(火) 17:00~18:30		
会議の場所	三田市役所 2号庁舎 2301会議室		
出席した委員の氏名	佐藤 裕司委員、石田 弘明委員、佐山 浩委員、岸本 和史委員、荒木辰哉委員、山田 五郎委員、阪本 浩司委員、森 里美委員、山田 敏雄委員、貴島 早緒里委員		
出席した庶務職員の職及び氏名	事務局	まちの再生部	久高部長
		ゼロカーボンシティ推進室	辻下室長
		環境創造課	赤井課長、辰巳係長、寺嶋主任
傍聴者の人数	0名		
取材者の人数	0名		
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. 挨拶 3. 議 事 <ol style="list-style-type: none"> ① 三田市環境審議会の運営について ② 事前アンケートの結果について ③ 三田市環境基本計画の改定について 4. その他 5. 閉 会 		
会議の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに設置された三田市環境審議会の設置について、説明を行った。 ・第3次三田市環境基本計画改定の事前アンケート結果について説明を行い、それに対する質疑を行った。 ・環境基本計画改定について説明を行い、それに対する質疑を行った。 		
公開・非公開の区分	公開		
使用した資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 次第 ➢ 【資料 1-1】環境に関するアンケート調査結果(市民) ➢ 【資料 1-2】環境に関するアンケート調査結果(事業者) ➢ 【資料 2】計画の位置づけ ➢ 【資料 3】計画の施策体系(案) ➢ 第4次三田市一般廃棄物処理基本計画【概要版】 ➢ 三田市里山の保全と活用に関する行動計画 		
連絡先			

■委員紹介

2年毎の委員の改選ということで、改選後初めての開催にあたり委員紹介を行った。
(令和4年度 環境審議会委員名簿の通り)

■会長・副会長

三田市環境審議会規則第2条の規定により、正副会長は委員の互選により選任することになっていたが、意見がないため事務局側から提案。
学識経験者から会長として佐藤委員、副会長として石田委員を提案。賛成多数により、会長、副会長決定。

■議事:

三田市環境審議会規則第2条第2項の規定により、佐藤会長が進行。

① 三田市環境審議会の運営について

会議録の取り扱いについては、個別の発言者名を記載せず、「会長」「委員」「事務局」等の記載とする。

② 事前アンケートの結果について

(事務局) 【資料1-1】を用いて市民アンケート結果の説明

(委員) 市民アンケートにおいて、子どもたちへの環境学習が重要だと意見があったが、三田市で校外学習はどのぐらい実施しているか。ひとはく(兵庫県立人と自然の博物館)でもやっていると思うが。

(事務局) 市では、幼稚園、小学校、中学校と校外学習で市内の様々な施設の見学を行っている。ひとはくにも校外学習等で行っていたかと思う。

(委員) 私も環境学習の推進、実施回数は十分だと思う。

(会長) 小学校3年生は必ず環境学習があり、ひとはくにも来ていたと思う。

(委員) 私も環境学習の推進、実施回数は十分だと思う。なので、今後はこういう講座を行っているということを広く告知することが出来れば、他にも参加者が増えるのではないか。

(会長) 回答者の年齢も高齢層に偏っているが、高齢者向けのものはあるか。

(事務局) 高齢者向けではないが、出前授業等でごみの処理に関する講座を行ったり、高齢者大学も行っている。

(委員) ごみ処理場への見学は行っているか。

- (事務局) 小学校3年生が見学に行っている。
- (会長) 貴重な体験だと思うので、継続していただきたい。
- (委員) 街路樹管理に関連して、歩道等の雑草が近年問題になっている。背の高い雑草があるせいで、ひと一人程しか通れないため困っているという話を聞く。しかも、自転車の通行を考えれば道幅が狭くて危険だと思う。どのぐらい除草しているのか。
- (事務局) のり面については2、3年に1度、歩道等についても年に1度程度だ。除草作業の回数を減らしており、市民より連絡があればその都度除草している状態である。今度、街路樹の整備計画が新たに整備され、それによって街路樹および雑草も管理できるようになると思う。
- (委員) 調査結果を見ると、ニュータウンの高齢層の回答が多く、地域別のニーズがしっかり反映できていないので、次に調査するときは年代別、地域別のニーズや意見が拾えるように分析できるようになると良い。
ごみ問題の意見が出ているが、すべての地域でクリーンデーは行っていないのか。
- (事務局) ほぼすべての自治会で行っており、他の地域行事と重なる等で実施できないときもあるようだが、基本的には通年通り行っているようだ。しかし、昨今はコロナ禍であることもあり、一部支障が出てきていることも聞いている。
- (委員) 個人的に、三田市は十分きれいな町だと思っているが、ここ数年のコロナ禍のこともありアンケート結果に一時的な影響が出ているようにも感じる。これを考慮しつつ、アンケート結果からニーズを拾い取り、本当に必要な施策を検討する必要があると思う。例えば、ごみの問題にばかり注視して、太陽光発電の普及を疎かにしていいのか等である。アンケート結果からニーズを拾いつつ、市にとって本当に必要な施策を、優先順位をつけて、検討する必要がある。
- (会長) 次回以降に、具体的な取り組みを検討することになるが、そのときにどう反映させるか考えなければならない。
- (委員) 問5で、「環境学習や環境保全活動に参加したことはないが、興味はある」の回答が多かった。実際、環境学習等ほどの程度開催していて、定員に対して満員なのか、状況が知りたい。
- (事務局) 去年度は23講座、8,700人で、これはコロナ禍前より少ない状況だった。しかし、今年度についてはイベント数も増え参加者数も増えてきており、コロナ禍前に近い水準まで回復しつつあるように思う。各講座の応募状況は、講座の内容によってまちまちとなっている。

(委 員) このアンケートの回答者の年齢構成と実際の市の年齢構成にはある程度相違があると思う。実際、子ども達の方が SDGs や環境問題について、大人より知っていると感じることが多々ある。子どもがいて、学校での環境学習について知っている回答者と、知らない回答者間での認識のギャップがあるように思う。また、逆に大人が取り組むべき「地球温暖化対策」について関心が前回調査より減っていることが気になる。これらを詳細に分析して取り組みを考える必要があると思う。

(会 長) アンケート結果の偏りを考慮しつつ、計画に結果を反映させていくことが重要だと思う。

(事務局) **【資料 1-2】を用いて、事業者アンケート結果の説明**

(委 員) 問 12 に関して 2 点程質問する。市に期待する取り組みについて、ISO14001 等の取得の割合が前回調査より減っているのではないか。また、選択肢に「事業者のごみの減量化・リサイクルについて支援」とあるが、これは具体的にはどのような内容を期待されているのか聞きたい。

(事務局) 全事業者調査ではないため、事業者アンケートについては前回との比較はしていない。しかし、今回のアンケートにおいて「過去に ISO14001 の認証を取得したが、現在は取得していない」の回答は 0.0% であるため、減ってないと認識している。事業者のごみの減量化支援の具体的な内容についてはアンケートから読み取れないが、ごみの適正処理にはコストが掛かることから適正処理がされず、行政指導を行う事例もある。

(委 員) つまり、処理に係るコスト支援も事業者は期待していると考えられるが。

(委 員) 私の勤めている工場で出ていた意見としては、リサイクルに関する情報提供や支援をしてほしいと聞いている。また、優良事業者制度の認定を受けられれば、ごみ処理が楽になるとも聞いている。これについても、情報提供等の支援が欲しいのではないかと思う。また、すでに優良事業者となっている事業者は苦情があった場合どうなるのか気になるようだ。これらに加えて事業者への省エネ対策に関する支援も興味があると聞いている。
ISO の取得に関しては、雑誌の記事で、大きな事業所では増えて、小さな事業所では減っていると記載があったように思う。

(委 員) ISO より SDGs の方が重要視されているのではないか。

(委 員) ESG 投資が増えてきており、ESG 投資を受けるために、ISO14001 を活用できるようで、大企業では増えてきているようだ。

- (委員) Webでの回答率はどのぐらいか。また、他市と比べてどうなのか知りたい。
- (事務局) 回答者のうち1/4程度の回答率である。現状他市との比較はデータがないため不明である。今後比較を検討させていただく。
- (委員) Web回答が可能であるため回答率を伸ばせたのであって、なければ3割程度だったように思う。
- (委員) Web回答が少ないのは、高齢者層が郵送で回答しているからかも知れない。
- (会長) 情報の入手手段において、広報誌が多いのも年齢層の影響があるように思う。
- (委員) 事業者アンケートにおいて、回答した事業者の業種や規模に偏りはないのか。建設業と製造業が多く、従業員数の多い事業者からの回答が多くなっている。逆に飲食業はまったく回答がない。
- (事務局) 完全に無作為で選んでいる。
- (委員) であれば、建設業や製造業はそもそも従業員数の多い業種だと思うので合点がいく。中小企業だと特に人手が十分ではなく、そもそも答えられないところが多いように思う。なので、完全無作為ではなく、例えば飲食業のみといったピンポイントな調査も今後は必要になってくると考えられる。そうしなければ、事業者全体のニーズを拾いきれないだろう。また、アンケート結果でも「新たな人手、手間、時間をとられる」が、環境保全を行う上での課題で最も多く回答されている。ゼロカーボンに関する会議でも言われているのが太陽光の普及だが、太陽光発電設備の導入への関心が、市民および事業者とともに低いことが気になる。どうしても、金銭支援がないと太陽光発電の普及は進まないように思う。
- (事務局) 太陽光発電への関心が低い一方で、家庭用蓄電池の関心が45%もある。今後はこれに合わせて使うため、太陽光発電設備のニーズも高まっていくのではないかと、市では考えている。
- (委員) ゼロカーボンに関する会議でも、三田市の自然エネルギーは太陽光がメインであり、太陽光発電の普及が重要であると言われていた。アンケート結果を踏まえて、今後対策をすべきである。
- (会長) 今後の取り組み内容の審議にて、反映させる必要があると思う。
- (委員) 是非、アンケート結果を踏まえて、事業者におけるリサイクル支援をお願いしたい。また今回の回答の多かった業種にさらにニーズを聞き取る調査もできると良いと思う。

③三田市環境基本計画の改定について

(事務局) 【資料 2】、【資料 3】を用いて説明

(委員) 資料 2 の P2 に「計画の対象範囲」が書かれているが、「環境の範囲」の項目は「環境の対象」の方が正しいと思う。

(事務局) 検討し、改めて示す。

(委員) 改定前の計画と相違が分かるような、マーカ一等の工夫はできないか。また、「環境に配慮した交通行動の促進」の項目がなくなっているが、どう変わるのか。

(事務局) 今後決まるゼロカーボンの施策に合わせて一部内容を修正している。交通行動は、移動・輸送の項目に含む形で整理した。

(委員) 先程のアンケートでも雨水利用を行っている事業者は少なかったが、雨水利用の啓発は、もう行わないのか。普及できていないように思うが。

(事務局) 具体的な内容については、今後検討する。

(会長) PDCA サイクルに則って、今後反映させていく必要があるように思う。脱炭素、ゼロカーボン、カーボンニュートラルといった用語が出てきているが、正確に扱うために改めて用語の整理が必要に思う。

(事務局) 今後対応する。

④その他

(事務局) 環境審議会の進捗と今後の予定について説明

(事務局) 当初の予定では、環境基本計画の改定に関する審議は、次回で最終であったがより良い計画を作成するため、可能であれば開催回数を 1 回分増やすことを了承いただきたいと思う。何卒宜しく願います。次回は来月末を想定している。

(会長) 了承した。

■閉会

議事録については、後日、配布する。